

「家族は生きる力」

川崎 眞由美

今年の夏は、庭に植えて7年目になるイチジクの木に、十数個の実ができて、食へることができた。イチジクを食べる度に、祖母を思い出した。私が子どもだった頃に、祖母は庭のイチジクを食べさせてくれたのだ。祖母が亡くなって5年になるが、楽しかった思い出が鮮明に思い出される。

私は、この貝塚市に住んで30年になるが、だんだんと貝塚市が好きになってきている。今は夫との二人暮らしだが、結婚して大阪府の他市に住んでいる長男と次男は、「実家は良いわ。落ち着くわ。」と、よく言っている。長男は、今年の10月から福島県に単身赴任しているが、新型コロナウイルスのために、3月4月5月は大阪府に帰ることができなかった。3ヶ月も家族に会えない長男のことが不憫に思われ、何回か食物を宅配便で送った。

家族は、大人になっても、心の中で元気をくれる物だと思ふ。昔の楽しい思い出があるから、少し苦しい現実社会で生きていけると思ふ。家族は、生きる力になってくれる。私はよく二色の浜公園を散歩するが、子どもの時に住んでいた他県の海の景色を思い出す。長男と次男も、大人になっても、この貝塚の景色を良い思い出として、たくましく生きてくれると信じている。